



大名庭園サミット水戸大会開催 伝統文化の継承と交流の拡大へ！



大名庭園サミット水戸大会

第三回大名庭園民間交流協議会

中秋の名月の九月十四日（十五日）水戸市で第三回大名庭園民間交流協議会が開催されました。協議会は、三年前に本会の発足を期して第一回大会を金沢で開き、昨年は岡山で第二回大会を開催、第三回目の今年は五つの庭園すべてとかかわりの深い水戸の地で開催されました。大会は「大名庭園と茶の湯文化」をテーマとして茨城県と水戸市の支援のもと、初日の役員会の後、総会と記念シンポジウム（茨城県立歴史館）、偕楽園萩祭りの野点茶会と名月観賞（偕楽園）、交流・懇親会（三の丸ホテル）、二日目の朝の散策（弘道館）、県主催の公開講座に合流しての記念講演会（茨城県立図書館）午後のエクスカーションの諸行事が行われました。

サミットには、金沢城・兼六園研究会から二一名、岡山藩郡代・津田永忠顕彰会から二四名、NPO法人小石川後楽園庭園保存会から四七名、栗林公園ボランティアガイドクラブから一七名の参加があり、地元水戸からも会員のほか多数が参加して充実した交流が持たれ、来年の小石川後楽園での再会を誓つて別れました。



パネラー一同

家庭や隣人への「お

水戸大会のようす

総会

茨城県立歴史館講堂において午後一時四分から総会が開催されました。

和田会長の挨拶、来賓代表の茨城県知事代理栗田則夫土木部次長、加藤浩一水戸市長の挨拶の後、役員会の議事が報告され、承認されました。

パネルディスカッション

コーディネーターの久信田喜一氏（茨城地方史研究会副会長）の基調報告に続いて、五つの団体からそれぞれの公園と茶の湯文化に関して報告されました。報告は、プログラムに印刷されている「大名の茶道の歴史と流派、各庭園にあった茶室名・大きさ・特徴、藩政時代に行われた茶事の様子、現在も行われている茶会の内容・規模・参加者など」の資料に基づいてなされました。

代表者以外に茶の湯に詳しい人が報告される会もありましたが、内容が多面的なだけに十五分という時間では不足でした。各庭園の多様な茶の湯との関わりが報告され、幕府や他の大名との交際で用いられた小石川後楽園、大名庭園保存会から四七名、栗林公園ボランティアガイドクラブから一七名の参加があり、地元水戸からも会員のほか多数が参加して充実した交流が持たれ、来年の小石川後楽園での再会を誓つて別れました。

「庭拌見」と一体となつた兼六園など、特徴ある使われ方が印象的でした。時間の制限で討論は省略し、久信田氏がまとめを行い、パネルディスカッションを終了しました。

野点茶会

朝の雨がウソのような好天の下、参加者は三々五々偕楽園で開催中の月見の野点茶会に参加し、茶の湯を楽しみました。あたかも遠来のお客様を歓迎するように、満月も顔を出し一段と風情が増しました。



交流懇親会

午後七時から三の丸歴史アドバイザー水戸の案内で、四班に分かれて弘道館の内外を歩きました。

午前十時から、茨城県立図書館にて、茨城県の公開講座として林原美術館館長熊倉功夫氏に「庭の中の茶の湯」の演題で講演していただきました。

朝の散歩

午前八時から、茨城県立図書館にて、水戸市内観光、水戸ウォーク、笠間稲荷と陶芸博物館見学の三コースに分かれで講演していただきました。

（二面と三面に詳報）

記念講演「庭の中の茶の湯」

行事報告



熊倉功夫氏

家康、秀忠、
家光というう
三代将軍の
時代に茶の
湯というも
のが大変盛
んになつた。
これは信長
秀吉の影響
で、戦国大
名たちは茶
の湯ができ

江戸時代に茶の湯に一回の大き
な盛り上りがあります。最初が初
期、三代将軍家光の時代まで、も
う一つは、一八世紀の終わりから
一九世紀の初め。この時期に、い
ろんな大名がお茶を庭園の中で樂
しむという時代があつたんじやな
いか。昨日のパネルディスカッショ
ンの資料を見ますと五つの庭園
の報告の中に共通してうかがわれ
ます。

江戸時代の大名と茶の湯文化

林原美術館館長 熊倉 功夫氏
一九四三年東京生まれ。東京教育大学文学部卒業。日本文化中
專攻。文学博士。京都大学講師
筑波大学教授、國立民族学博物
館教授を経て、現在(財)林原美
術館館長。茶道史、寛永文化の
ほか日本の料理文化史、民芸運
動など幅広く研究。著書には『茶
の湯』『寛永文化の研究』『近代数
奇者の茶の湯』『日本料理文化史』
などがある。

ないとまともな付き合いができるないので、否が応でも茶の湯をやらざるを得なかつた。

戦国時代というのは非常に自己主張の強いリーダーが、指導力を発揮しなければいけない時代であります。リーダーが民衆の前に姿を現さなければいけない。そのためには自らを飾り立てる文化が必要であります。その飾り立てる時の約束事が茶の湯だつたわけです。

大名庭園と茶の湯・茶室

を離れた姿になる。茶室の中は世俗の世界ではないということです。茶人は茶名を持ち十徳を着ています。これは医者と同じで身分に拘らないことを意味する。

この茶室を大きくしたのが大名庭園で、大名庭園はまさに山。築山があつて、鬱蒼たる森があつて、そしてその中をぐぐつしていくと、そこにはまた池がある。この池が次の話題で、「海上他界觀と池泉

一つは「山中他界觀」。理想の世界、エートピアは山の中にあるということなんですね。山の中には小さな庵を作る。庵は方丈、十尺四方、一切合計を含んだ四畳半を作り、そこで暮らす。しかしそうはいかないので山の中にある方丈を街の中に作ればいい。それが市中の山居という考え方。

この世の世界から人間が段々変化して茶室に入る時には普段の自分でなく、脱俗の人になっていく。

海を渡つて向こう側へ行きますと、そこは別世界だと、こういう海上他界觀というのが日本の文化の中につつと根付いているわけです。大名庭園の池、普通は池泉回遊式、池の周りを回り、変わった景色を楽しんでいくので回遊と言う。私はそうではなく、初期においては池泉周遊式、舟で遊ぶための池ではないか。大名庭園の大きな池は、あそこに舟を浮かべて管弦を楽しむという池なんですね。

大名庭園の使い方の中にも、池を渡つて茶屋に行くというコースがあります。舟を使つて茶屋に渡る、その茶屋でお茶を楽しむ。その茶室は海上の淨土を意味します。このように大名庭園には日本人が作ってきた文化の非常に古い繩文時代以前の日本人の意識が生き

茶人は茶室に入つた時は、心身を清めて、解脱した世俗

てゐる。そこを理解すると、茶の湯あるいは庭園が我々の何か快さを生み出してくれることがわかる。

余室を大きくしたのが大名庭園はまさに山。築いて、鬱蒼たる森があつて、その中をくぐつていくと、そこはまた池がある。この池が題で、「海上他界観と池泉」と挙げておきました。

向うにユートピアがある、海上他界観と言っています。向こう側へ行きますと、別世界だと、こういう海上というのが日本の文化の中根付いているわけです。庭園の池、普通は池泉回遊の周りを回り、変わった景しがんでいくので回遊と言う。うではなく、初期において局遊式、舟で遊ぶための池いか。大名庭園の大きな池そこに舟を浮かべて管弦を。こういう池なんですね。

庭園の使い方の中にも、池と茶屋に行くというコースあります。舟を使って茶屋に渡り、茶屋でお茶を楽しむ。そは海上の浄土を意味します。ようくに大名庭園には日本人へは庭園が我々の何か快さてきた文化の非常に古い縄以前の日本人の意識が生き出してくれることがわかる。(要約と小見出しは大槻)

平成梅林整備推進事業

苗畑の現状

二月に植えた苗畑のうち、北側のA苗畑では数本の枯損と発芽不良があり、南側のB苗畑は多少のばらつきはあるものの生育良好でした。これは、土壤環境の違いによるもので、A苗畑は石礫の混在と土壤の固結傾向が見られるうえ、排水不良のため降雨のたびに滞水した結果、枯損や生育不良が発生しましたと思われます。

六月下旬にA苗畑に全体の耕起と排水溝の掘削を行ったので、根腐等の懸念は解消されました。しかしB苗畑に比べて生育不良は否めません。

(後藤記)

苗畑の管理

- 二月 植付け後の養生
- 四月二六日 会員による除草作業
- 六月下旬 A苗畑の耕起と排水溝掘削工事
- 四・七・九月 施肥
- 四・九月 農薬散布・含葉肥剤
- 七・八月 夏期散水
- 八月二七日 会員による除草作業
- 八・九・十月 雜草刈り払い
- 十月 緑肥の播種(アリーベツチ)・刈草等マルチング

四月二六日に除草作業に集まつた役員・会員は、予想外に悪い苗畑の土壤と生育の悪さに驚き、その対策に追われることになりました。県と急遽協議して県が実施する薬剤散布のほか会が経費を負担してA苗畑



こうして、なんとか大きな損害が発生する前に貴重な梅苗木を守ることができました。今後も注意して見守りたいと思います。

(後藤・大槻記)

苗木の収集

第二回植樹祭の梅苗は、都立青梅総合高校(旧都立農林高校)で須崎輝男氏が長年収集され育成されてきた見本園や国立武藏丘陵森林公園、水戸市植物公園から接穂をいただいて育苗中です。

苗も加えると、全部で二三七品種四九本になり、新しく導入される品種は一七九品種で、収集品種の数では日本一となります。

(宮嶋記)

の耕起と排水溝の掘削を実施しました。八月には会員による除草作業を行いました。さらに十月には改良も試みることになりました。現在順調に発芽・生育しています。

苗畑の拡張計画

今年度から偕楽園公園を管轄することになった水戸土木事務所では、第二回植樹のための新たな苗畑と第三回の植樹に向けての苗畑の拡張計画の検討に着手されました。

苗畑候補地としては、現苗畑の西側、旧桜川の左岸が挙げられていますが、湧水対策と既設道路の陥没対策など問題があるため確定に至っていません。苗木の定植を見越して今年度末までに計画を策定する予定であるとのことです。

会も積極的に要望を述べ、平成梅林の完成を目指したいと思います。

(大槻記)

募金事業

梅苗の収集はほぼ完了しましたが、苗畑の管理に今後も多額の費用が必要になってしまいますので、募金を継続いたします。引き続きご協力をお願ひします。

梅苗の収集はほぼ完了しましたが、苗畑の管理に今後も多額の費用が必要になってしまいますので、募金を継続いたします。引き続きご協力をお願ひします。

募金 助成金 協力者
六・七〇一、四八八円 六五〇、〇〇〇円
一、〇六三件(団体を含む)
十月三十日現在

これから行事

本会の行事は「水戸市報」や新聞各紙などの行事案内に掲載されるよう努力していますが、会員への個別のご案内は致しません。お問い合わせは葉書あるいはファックスで連絡担当者までご連絡ください。

記事の訂正 第五号二面行事報告で、決定次第ホームページで通知します。
・時間場所等未定

第一回植樹祭 第四回通常総会(予告)
・平成二十一年二月(期日未定)
・場所 苗畑(好文橋北)
・決定期次第ホームページで通知します。

入会と募金の御案内

◆随時入会・募金を受け付けます。
申し込みは事務所あるいは知り合いの役員まで。

◆会費は年1,000円
募金は1口2,000円

事務所: 水戸市末広町2-2-10
祐月本店内 〒310-0053
Tel: 029-222-1117
Fax: 029-222-1116
ホームページ
<http://www.kairaku-en.jp/>